

NEWS LETTER

No.



2005
MARCH

リウマチ

Newsletter of Japan College of Rheumatology

JCR2005 大会特集号

第49回 日本リウマチ学会総会・学術集会
第14回 国際リウマチシンポジウム



有限責任中間法人

日本リウマチ学会

モービック錠 新登場!!

のみやすく、用量調節がしやすい割線入り錠剤*です。

* 割線入り錠剤は10mg錠のみです。5mg錠には割線が入っていません。



非ステロイド性消炎・鎮痛剤 薬価基準収載
モービック® 錠 5mg・10mg
 Mobic® Tablets 5mg・10mg (メロキシカム製剤)

劇薬/指定医薬品
 効能・効果、用法・用量、禁忌および使用上の注意等につきましては製品添付文書をご参照ください。

発売元 **第一製薬株式会社** 資料請求先
〒103-8234 東京都中央区日本橋三丁目14番10号
ホームページアドレス
http://www.daiichipharm.co.jp/

製造元 **Boehringer Ingelheim** 日本ペーリンガーインゲルハム株式会社
〒666-0193 兵庫県川西市矢間3-10-1

127X180 504

体外診断用医薬品

リウマチの新しい見方

マトリックスメタロプロテイナーゼ-3

MMP-3

関節滑膜の活動性把握に血清MMP-3

血清MMP-3

関節滑膜の増殖

X線写真

骨の破壊

リウマトイド因子
抗ガラクトース欠損IgG抗体等

免疫学的異常

CRP、赤沈等

全身の炎症

健保適用

パナクリア® MMP-3 「ラテックス」

血清中マトリックスメタロプロテイナーゼ-3測定用

販売元



第一化学薬品株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目13番5号

製造元



第一ファインケミカル株式会社



西岡 久寿樹

第49回日本リウマチ学会総会・学術集会
第14回国際リウマチシンポジウム
会長

第49回リウマチ学会総会・ 学術集会(JCR2005) 開催にあたって

— JCR2005…サイエンスランドを

十分に楽しんでください—

第49回日本リウマチ学会総会・学術集会、第14回国際リウマチシンポジウム(JCR2005)を2005年4月17日から20日まで、パシフィコ横浜を主会場としてお世話させて頂く事になりました。開催まで残すところ一ヶ月となりました。

本学会を開催させて頂くにあたり、これまでのJCRの学術集会の組織編成に大胆な改革を加えさせて頂きました。というのもJCRが法人化されたことにより、当然の事ですが年1回の学術集会総会は構成する学会員のたゆまない臨床や基礎研究の成果を発表するためのステージ、すなわち「学会員のための場」でなくてはなりません。そのために運営委員会、プログラム委員会、教育研修プログラム委員会、学会運営を評価する評価委員会という4つの委員会を設け、運営して頂くことにしました。お蔭様で初日の専門医を対象としたコースレクチャーの演者もテーマも決定しました。

また、山本一彦委員長を始めとするプログラム委員会の先生方のご尽力により、プレナリー11演題、シンポジウム54演題、国際シンポジウム28演題、ワークショップ主会場である展示会場で行われるポスターディスカッション等含めて1145演題、EULAR-JCR Sessionなどが決定しました。初めての試みなので、なかなか思うようには行きませんが、「学会員のためのステージの基盤作り」はどうしても避けられません。何卒会員の皆様にも宜しくこの先も御支援頂きたいと思えます。

また、日本リウマチ学会(JCR)の理事会の承認を得て、学術集会総会をより一層国際化させ、米国リウマチ学会議(ACR)、欧州リウマチ学会議(EULAR)とともに、JCRが国際的に三極構造の一角を担うための基盤形成を目的としました。

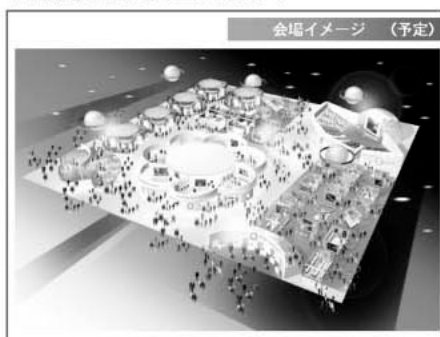
ご存知のように、JCRはすでにアジア・太平洋地域において、他の加盟国と比較して質量ともに最大の組織であります。しかしながら、国際的な貢献度からみると、JCRにはより一層強力なリーダーシップを発揮することが海外から強く要求されております。私自身が昨年9月からアジア太平洋リウマチ会議(APLAR)会長に選任されたこともあり、APLAR圏の諸国と緊密な関係を保ちながら、アジア太平洋地域でのリウマチ等の拠点形成を推し進める所存です。そのために海外から多数の若手研究者や第一線の研究陣が国際シンポジウムやワークショップに参加されます。JCRが国際的にホットなサイエンスの情報が発信できるようなプログラム編成を考慮しております。

一方学術集会の組織編成、スポンサーシンポジウム、ビジネスブース等の企画に大改革を加えさせて頂きました。

図は主会場となるサイエンスランドのイメージですが、この会場でポスターディスカッションとして1日に200~250演題が発表されるサイエンティフィックゾーン、企業展示やコースレクチャー、大型画面でのビデオモニターを中心にシンポジウムの中継や、各種のメッセージ日本リウマチ学会への各界からのメッセージ等のビデオ上映を定期的に行います。また、インターネットカフェも設置させて頂きました。

このサイエンスランドではホットなディスカッションの後、サイエンスにビジネスを加え、本学会を十分に楽しんでいただけるようエンターテイメントの要素も工夫しました。堅苦しいセレモニーは会期中一切ありません。カジュアルな服装でご来場して下さい。是非多くの方々のご参加を期待しております。詳細についてはホームページ(<http://www.jcr2005.com/>)を御参考にして頂ければ幸いです。

▼主会場となるサイエンスランド



平成17年3月吉日

JCR 2005

- The 49th Annual General Assembly and Scientific Meeting of Japan College of Rheumatology
- The 14th International Rheumatology Symposium

第49回 日本リウマチ学会総会・学術集会 第14回 国際リウマチシンポジウム

●2005年4月17日(日)～20日(水) ●パシフィコ横浜

会議の目的と開催意義

サイエンスランドから国際的な情報発信を目指して

日本リウマチ学会 (JCR) が、アメリカリウマチ学会 (ACR) , 欧州リウマチ学会議 (EULAR) とともに国際的三極構造の一角を担うべき基盤形成を行う。

APLAR圏の諸国と緊密な関係を保ちながら、アジア太平洋地域でのリウマチ性疾患の教育・研究・情報の拠点形成を推し進める。

ACR、EULARと共通のステージで国際的に情報発信を行う。

サイエンスとビジネスとエンターテイメントの融合を企るサイエンスランド。



開催概要

■会議の名称	第49回日本リウマチ学会総会・学術集会 第14回国際リウマチシンポジウム
■主催	聖マリアンナ医科大学教授 難病治療研究センター長 西岡 久寿樹
■会期	2005年4月17日(日)～4月20日(水)
■会場	パシフィコ横浜 〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1
■参加者数(予定)	約8,000名(延べ人数) うち外国人500名

■学術プログラム	●一般演題	●指定演題																	
	<table border="1"> <tr><td>プレナリーセッション</td><td>11</td></tr> <tr><td>シンポジウム</td><td>54</td></tr> <tr><td>ワークショップ</td><td>106</td></tr> <tr><td>ポスターディスカッション</td><td>854</td></tr> <tr><td>合計:</td><td>1025</td></tr> </table>	プレナリーセッション	11	シンポジウム	54	ワークショップ	106	ポスターディスカッション	854	合計:	1025	<table border="1"> <tr><td>シンポジウム</td><td>51</td></tr> <tr><td>ワークショップ</td><td>8</td></tr> <tr><td>国際シンポジウム</td><td>28</td></tr> <tr><td>合計:</td><td>87</td></tr> </table>	シンポジウム	51	ワークショップ	8	国際シンポジウム	28	合計:
プレナリーセッション	11																		
シンポジウム	54																		
ワークショップ	106																		
ポスターディスカッション	854																		
合計:	1025																		
シンポジウム	51																		
ワークショップ	8																		
国際シンポジウム	28																		
合計:	87																		
	●その他	総合計: 1145																	
	<table border="1"> <tr><td>EULAR-JCR Session</td><td>4</td></tr> <tr><td>ランチョンセミナー</td><td>20</td></tr> <tr><td>イブニングシンポジウム</td><td>9</td></tr> <tr><td>合計:</td><td>33</td></tr> </table>	EULAR-JCR Session	4	ランチョンセミナー	20	イブニングシンポジウム	9	合計:	33										
EULAR-JCR Session	4																		
ランチョンセミナー	20																		
イブニングシンポジウム	9																		
合計:	33																		

参加者へのお知らせ**1.学会総会・学術集会参加の皆様へ**

1) 総合受付は展示ホール1階およびパシフィコ横浜会議センター2階で行います。
参加登録受付、専門医制度研修単位の取得手続き、総合案内等を行っています。

■受付時間

4月17日(日) 07:30～17:00 4月18日(月) 07:30～18:30
4月19日(火) 07:30～18:30 4月20日(水) 07:30～16:00

■受付内容

- 総合案内、参加登録受付、新入会受付、抄録集販売、各専門医制度研修単位の取得手続き
- 2) 学会本部はパシフィコ横浜会議センター2階 211・212号室です。
 - 3) 会場内は必ずネームカードをご着用下さい。
本学会では各会場入口でネームカードをチェックし、ネームカードのない方の入場はお断り致します。ご協力をお願い致します。事前登録された方は、ネームカードを必ずご持参ください。
 - 4) 第14回国際リウマチシンポジウムにも第49回日本リウマチ学会総会・学術集会のネームカードで参加できます。
(ネームカードは共通とします。)
 - 5) 当日参加登録される方は、展示ホール1階またはパシフィコ横浜会議センター2階の総合受付にて登録費17,000円をお支払いの上、ネームカード、資料をお受け取り下さい。
 - 6) 学会員の方は事前にお送りする抄録集 (Modern Rheumatology Supplement) をご持参下さい。日本語抄録集は、当日総合受付にて1冊3,000円で販売いたします。
 - 7) 有限責任中間法人日本リウマチ学会 (以下「日本リウマチ学会」という) に入会される方は、総合受付にて手続きをして下さい。なお、学会場では年会費の受付は行いません。

■学会会期中 連絡先

学会本部 パシフィコ横浜 会議センター2階 211・212号室
TEL 045-228-6435(5775) FAX 045-228-6436(5776)

JCR2005 組織委員構成

組織委員会 (Organizing Committee)

プログラム
委員会

運営委員会

評価委員会

教育研修プログラム
委員会

プログラム委員会



委員長

山本 一彦 先生

東京大学医学部
アレルギー・リウマチ内科



副委員長

田中 栄 先生

東京大学医学部
整形外科



副委員長

中島 利博 先生

聖マリアンナ医科大学
難病治療研究センター

各演題領域における責任者

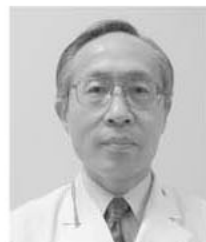


RAの臨床

RA- Clinical aspects

川合 真一 先生

東邦大学医学部附属大森病院
膠原病科



RAの治療

RA- Treatment

宮坂 信之 先生

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
膠原病・リウマチ内科学



膠原病の病態と治療

Collagen diseases

小池 隆夫 先生

北海道大学医学部
第二内科



自己免疫と疾患

Autoimmunity and diseases

住田 孝之 先生

筑波大学臨床医学系内科
膠原病・リウマチアレルギー



小児のリウマチ性疾患
Pediatric rheumatology

横田 俊平 先生

横浜市立大学医学部
小児科学



関節外科(膝関節・股関節・手関節・その他の関節)
Joint surgery

龍 順之助 先生

日本大学医学部
整形外科



脊椎外科
Spinal surgery

中村 耕三 先生

東京大学医学部
整形外科



骨粗鬆症
Osteoporosis

中村 利孝 先生

産業医科大学
整形外科



変形性関節症
Osteoarthritis

中村 孝志 先生

京都大学医学部
整形外科



リウマチ性疾患の基礎:分子とシグナル
Basic science of rheumatic diseases-Molecular mechanism and signaling

吉川 秀樹 先生

大阪大学医学部
整形外科



リウマチ性疾患の基礎:動物モデル
Basic science of rheumatic diseases-Animal models

能勢 真人 先生

愛媛大学医学部
病理学第二

教育研修プログラム委員会



●委員長
三森 経世先生
京都大学医学部 臨床生体統御医学



●副委員長
吉野 慎一先生
日本医科大学 リウマチ科

JCR2005事務局



第49回日本リウマチ学会総会・学術集会事務局長
中村 洋先生 (聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター)
〒216-8512 神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1
Tel 044-977-8111・044-979-5129 Fax 044-977-9165
E-mail: nakamura@marianna-u.ac.jp <http://www.jcr2005.com/>

JCR2005 運営事務局
104-0061 東京都中央区銀座3丁目10-9共同ビル(銀座3丁目)2階
(株)ジェイコム内
TEL: 03-3546-1175 FAX: 03-3546-1165 E-mail: jcr2005@jtbcom.co.jp

アニュアルコースレクチャー 2005年4月17日(日)

リウマチ性疾患・膠原病治療の最前線

Frontier of treatment for rheumatic and connective tissue diseases

関節リウマチ (rheumatoid arthritis, RA) の診療ガイドライン Management Guideline of rheumatoid arthritis

山本 一彦 東京大学大学院医学系研究科アレルギーリウマチ学 教授



診療ガイドラインとは「特定の臨床状況に関して、医師および患者が適切にヘルスケア上の決断を行えるように支援するために体系的に作成された文章」と定義することができる。2002年にアメリカリウマチ学会 (ACR) の新しいガイドライン「guidelines for the management of rheumatoid arthritis: 2002 Update」が出された。これはRA患者に対していかに診療すべきかの基本的ガイドラインであり、病初期における治療の有効性、治療の予後に及ぼす効果、新しい薬の導入などの進展を受け、可能な限り科学的根拠に基づいたものにしたとの記述がある。これに対して我が国では厚生労働科学研究「科学的根拠に基づく関節リウマチ診療ガイドラインの策定に関する研究班」が大阪大学の越智隆弘教授のもとに組織され、2004年に発表された。本レクチャーではこれらを概説して、ガイドラインについて理解を深めて頂くことを目的とする。

SLEの治療：今日の問題と将来の展望 Update of treatment for systemic lupus erythematosus

小池 隆夫 北海道大学大学院医学研究科病態内科学講座・第二内科 教授



全身性エリテマトーデス (SLE) の生命予後はステロイド薬や免疫抑制薬の大量投与方法により大幅に改善されたが、中枢神経病変、肺胞出血、抗リン脂質抗体症候群、肺高血圧等の難治性・致死性病態に対しては臨床現場では治療に難渋することが多い。また、通常のSLEの病態であるにもかかわらず、ステロイド薬や免疫抑制薬にたいして治療抵抗性を示し、薬剤の減量に苦慮することもしばしばである。

関節リウマチに対する治療が生物学的製剤の登場によりドラマティックに変わったように、SLEに対する治療も大転換する可能性を秘めている。その良い例がB細胞性悪性リンパ腫に使われてきたリツキサン (抗CD20抗体) であり、治療抵抗性のSLEに対して欧米を中心に使用され始めており、本邦でも治験が開始された。

本レクチャーではこれまでのSLEの治療を概説し、現在治験中のものからさらには近未来に実現可能なものも含めてSLEの最新の治療につき解説する。

血管炎症候群の最新の治療 Update of treatment for vasculitis syndrome

尾崎 承一 聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科 教授



血管炎症候群は血管炎を基盤とする様々な臨床病態の総称であり、適確に診断・治療されないと臓器虚血による機能障害に至り、重篤な場合は致命的である。従ってその診療にあたっては、まず血管炎症候群ではないかと疑うことが重要であり、次に炎症の程度や臓器障害の程度を判断しつつ鑑別診断を進め、適切な治療をタイムリーに開始することが重要である。

本セミナーでは、血管炎症候群の分類、共通の臨床像・検査所見、代表的疾患の診断のポイントについて概説したのちに、最新の治療について述べる。特に血管炎症候群の代表的疾患については、現在本邦で推奨されている治療のガイドラインを詳細に解説する。また、欧米でエビデンスが蓄積している「ANCA関連血管炎」については、そのエビデンスに基づく標準的治療法を紹介する。さらに、それらの標準的治療法に対しても難治性の症例において、有効性が報告されている最新の治療法についても言及する。

骨粗鬆症治療の変遷 Management and treatment of osteoporosis

林 泰史 東京都老人医療センター 病院長



1960年頃に腰痛軽減を目的として始まった骨粗鬆症治療は骨密度測定法の普及や骨量増加作用のある薬剤の登場により1980年ごろから骨密度増加を目指した根治療法へと進展した。さらに1990年代の骨折率を抑制する治療法から、21世紀に入って患者の最も望む大腿骨頸部骨折防止へと治療の目標が少しずつ変わってきた。一方、最近ではQOLの観点から、再び除痛の重要性が治療目標にひとつとなっている。

21世紀の骨粗鬆症治療体系は強力な薬物療法、転倒防止、転んでも安全なヒップ・プロテクターの装着の3本柱がイーブンの割合で大腿骨頸部骨折を減少させるとして勧められている。21世紀に入って新しく登場してきたビスフォスフォネート、塩酸ラロキシフェンなどの骨粗鬆症治療について詳しく述べると共に3本柱の2本、転倒防止法・ヒップ・プロテクターの貢献度や医療経済などについても述べる。

アニュアルコースレクチャー 2005年4月17日(日)

リウマチ性疾患・膠原病治療の最前線

Frontier of treatment for rheumatic and connective tissue diseases

人工関節の進歩 Progress of arthroplasty

中村 孝志 京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座整形外科学 教授



関節リウマチにおいてもDMARDや生物学製剤の著しい進歩にもかかわらず、破壊された関節の修復には人工関節が最も有効な治療方法となっている。現在の人工関節の成績は股関節や膝関節においては再置換をend-pointとした10年の成績では95%の成績が示されている。RAではそれ以外の関節でも関節置換が必要であるが、股関節や質関節ほどの成績はでていない。優れた成績には人工関節の機種が進歩とともに手術手技の進歩が大きく寄与している。従来のUHMWPEと金属の組み合わせに代わる材料の開発、また、骨とインプラントの固定性を改良が進められている。また、手術手技の改善とともに低侵襲手術を目指した改良も進められている。

変形性関節症の病態と治療

Pathogenesis and treatment of osteoarthritis

中村 耕三 東京大学大学院医学系研究科外科学専攻感覚運動機能医学講座整形外科学 教授

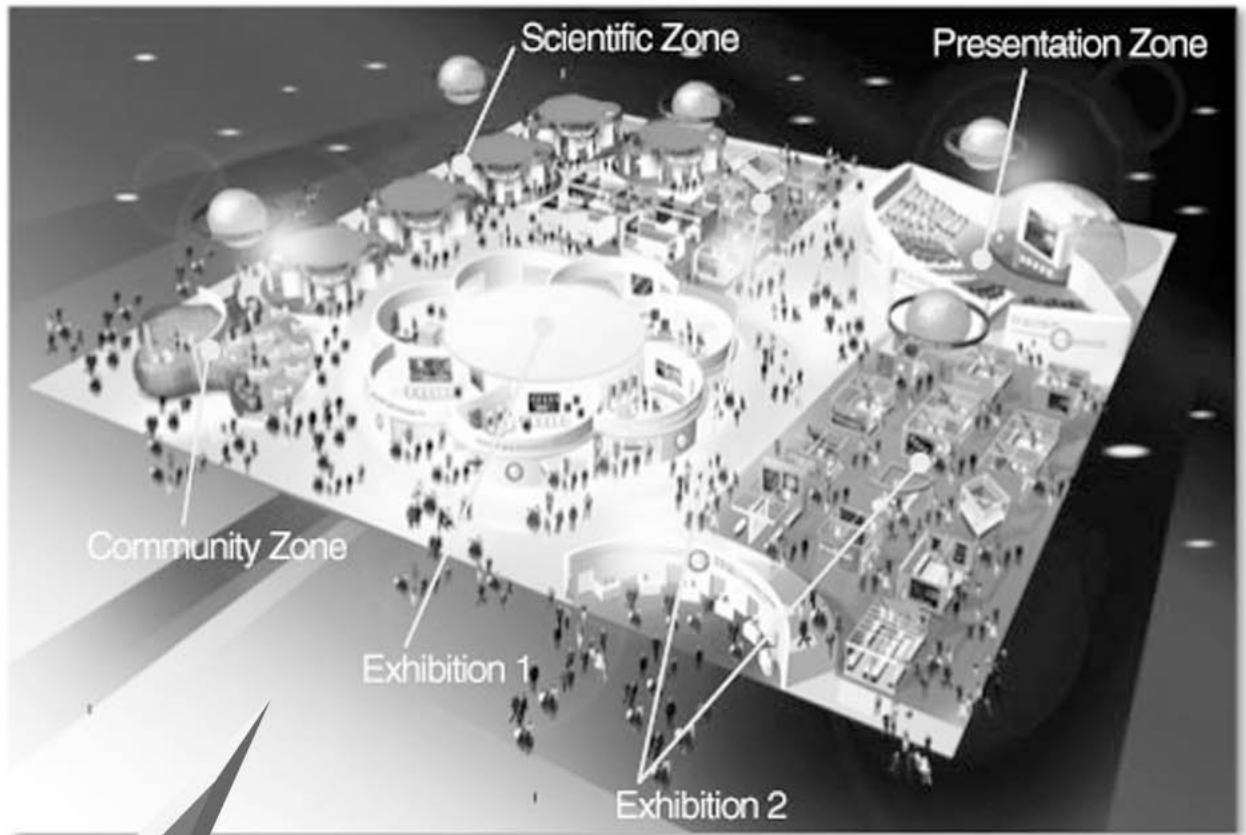


変形性関節症 (osteoarthritis; OA) は、関節軟骨および軟骨下骨の分解と合成の正常のバランスが破綻した結果、関節軟骨の変性、軟骨下骨の硬化を生じ、関節の機能障害を来す疾患である。環境因子と遺伝背景が関与する生活習慣病で、負荷の大きい荷重関節に発症しやすく、高齢者の生活機能 (QOL) を低下させる主な要因のひとつである。治療として、消炎鎮痛剤の投与、関節周囲の筋力の強化、支持装具の装着、ヒアルロン酸の関節内注射などの保存的治療が、また関節荷重状態の改善をめざす骨切り術や高度進行例には人工関節置換術が行われる。

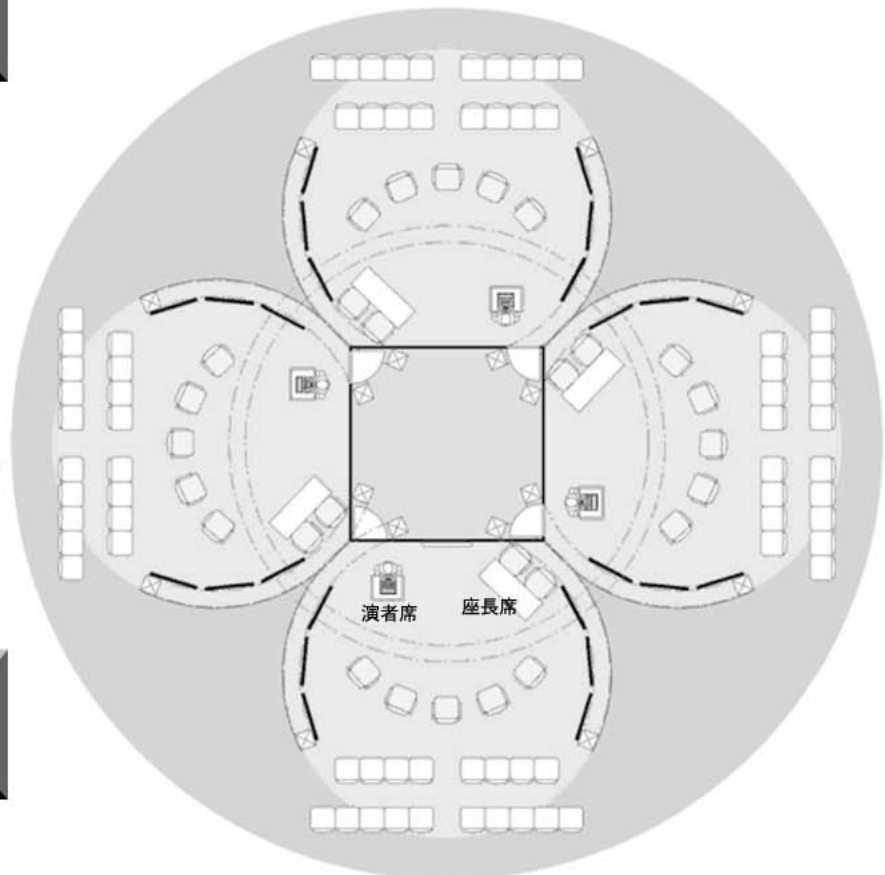
これらの治療法は成果をあげているものの、高齢社会を迎え、本症が増加することは確実で、その対策は社会的な要請課題である。リスク要因、発症と進行のメカニズムの解明、軟骨変性の早期診断、変性の定量的判定法の開発などが必要である。

この講演では変形性関節症の治療と病態解明の現状について解説する。

主会場「サイエンスランド」



会場イメージ(予定)



Scientific Zoneの
イメージ図

第1日目 4月17日(日)

会場名	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
メインホール 第1会場		AL1 アニュアルコース レクチャー1 演題：関節リウマチの 診療ガイドライン 座長：越智 隆弘 演者：山本 一彦	AL2 アニュアルコース レクチャー2 演題：生物学的製剤の 新展開 座長：三森 経世 演者：Peter E. Lipsky	AL3 アニュアルコース レクチャー3 演題：SLEの治療：今日 の問題と将来の展望 座長：佐々木 毅 演者：小池 隆夫	AL4 アニュアルコース レクチャー4 演題：血管炎症候群の 最新の治療 座長：橋本 博史 演者：尾崎 承一	
303・304号室 第2会場						
418号室						
インターコンチネンタルホテル ボールルーム						
展示ホールB サイエンスランド						展示 ビジネスプロモーションブース・各種イベント・

ポスターディスカッション セッション一覧

第49回日本リウマチ学会総会関連会議等	
1. 理事会	日時：4月17日(日) 14:00~16:30 場所：パシフィコ横浜 会議センター「418号室」
2. 評議員会	日時：4月17日(日) 17:00~18:30 場所：パシフィコ横浜 会議センター「303・304号室」
3. ウェルカムパーティ(日本リウマチ学会員懇親会) (会費制 3,000円)	日時：4月17日(日) 19:00~21:00 場所：インターコンチネンタルホテル 「ボールルーム」
4. 社員総会	日時：4月19日(火) 14:00~14:30 場所：パシフィコ横浜 会議センター「メインホール」

ブース	4月18日(月)	
	ポスターディスカッション1 11:00-12:30	ポスターディスカッション2 16:10-17:40
A	PD1-a RAの経過・予後 1	PD2-a Raの肺病変 1
B	PD1-b RAの社会・心理的側面 1	PD2-b RAの臨床評価法
C	PD1-c RAの社会・心理的側面 2	PD2-c RAの合併症 1
D	PD1-d 生物学的製剤 1	PD2-d 生物学的製剤 3
E	PD1-e 生物学的製剤 2	PD2-e 生物学的製剤 4
F	PD1-f 白血球除去療法	PD2-f DMARDs 1
G	PD1-g RAの治療：その他 1	PD2-g RAの治療：その他 2
H	PD1-h 強皮症 1	PD2-h 全身性エリテマトーデス 1
I	PD1-i 血管炎症候群 1	PD2-i 強皮症 2
J	PD1-j 血管炎症候群 2	PD2-j 血管炎症候群 3
K	PD1-k 膠原病の合併症 1	PD2-k 血管炎症候群 4
L	PD1-l 膠原病の合併症 2	PD2-l 膠原病の合併症 3
M	PD1-m シェーグレン症候群と自己免疫	PD2-m 膠原病の合併症 4
N	PD1-n 自己免疫と疾患：症例報告 1	PD2-n 自己免疫疾患のゲノム解析
O	PD1-o 関節リウマチの頸椎病変	PD2-o 自己抗体と病態 1
P	PD1-p リウマチ性疾患と滑膜 1	PD2-p リウマチ性疾患の脊椎・脊髄病変
Q	PD1-q 抗リン脂質抗体症候群・ベーチェット病その他	PD2-q 小児期のリウマチ性疾患
R	PD1-r 抗リウマチ治療の分子作用機序	PD2-r 関節リウマチにおける骨粗鬆症
S	PD1-s リウマチその他	PD2-s 破骨細胞
T	PD1-t 疾患モデル	PD2-t リウマチ性疾患と遺伝子解析 1
U	PD1-u 細胞病態	PD2-u 分子とシグナル：シェーグレン症候群・強皮症その他
V	PD1-v 人工関節置換術 1-術後成績-	PD2-v 人工関節置換術 2-術後成績-
W	PD1-w RAの足関節	PD2-w リウマチ手術におけるPE, DVTの予防
X	PD1-x リウマチ手関節病変の治療	PD2-x リウマチ前足部の治療

※公演内容、時間等が変更されることがあります。会場にてご確認ください。

14:00		15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
AL5 アニュアルコース レクチャー5 演題：骨粗鬆症治療の 変遷 座長：吉野 慎一 演者：林 泰史	AL6 アニュアルコース レクチャー6 演題：人工関節の進歩 座長：勝呂 徹 演者：中村 孝志	AL7 アニュアルコース レクチャー7 演題：変形性関節症の 病態と治療 座長：井上 一 演者：中村 耕三											
						評議委員会							
理事会													
										ウェルカムパーティ (日本リウマチ学会員懇親会)			
インターネットカフェ・イベントステージ													

4月19日 (火)				4月20日 (水)																			
ポスターディスカッション3 11:00-12:30		ポスターディスカッション4 16:00-17:30		ポスターディスカッション5 11:00-12:30		ポスターディスカッション6 16:10-17:40																	
PD3-a RAの経過・予後 2	PD3-b RAの血清マーカー 1	PD3-c RAの合併症 2	PD3-d RA臨床：その他 1	PD3-e 生物学的製剤 5	PD3-f DMARDs 2	PD3-g RAの治療：その他 3	PD3-h 全身性エリテマトーデス 2	PD3-i 全身性エリテマトーデス 3	PD3-j 皮膚筋炎と多発性筋炎 3	PD3-k 混合性結合織病	PD3-l シェーグレン症候群 1	PD3-m ベーチェット病 1	PD3-n 膠原病の診断と治療	PD3-o 全身性エリテマトーデスにおける自己免疫	PD3-p 若年性特発性関節炎 2	PD3-q リウマチ性疾患の腰仙椎病変	PD3-r 骨粗鬆症の病態と治療 1	PD3-s リウマチ性疾患と滑膜 2	PD3-t リウマチ性疾患と遺伝子解析 2	PD3-u リンパ球	PD3-v NKTおよびT細胞	PD3-w 人工関節置換術-再置換 他-	PD3-x 骨折の手術 他
PD4-a RAの肺病変 2	PD4-b RAの血清マーカー 2	PD4-c RA：症例報告 1	PD4-d RA臨床：その他 2	PD4-e 生物学的製剤 6	PD4-f DMARDs 3	PD4-g DMARDs 4	PD4-h 全身性エリテマトーデス 4	PD4-i 全身性エリテマトーデス 5	PD4-j 強皮症 3	PD4-k 抗リン脂質抗体症候群	PD4-l 線維筋痛症・その他	PD4-m ベーチェット病 2	PD4-n 膠原病の合併症 5	PD4-o 血管炎、筋炎	PD4-p 若年性特発性関節炎 1	PD4-q OAの臨床	PD4-r ステロイド性骨粗鬆症	PD4-s リウマチ性疾患と滑膜 3	PD4-t リウマチ性疾患とサイトカイン	PD4-u リウマチ性疾患と血管新生その他	PD4-v 血管・内皮細胞	PD4-w THA 1 術後成績	PD4-x Infliximabと手術及びビスフォスフォネート
PD5-a RAの画像診断	PD5-b RAの感染症	PD5-c RA：症例報告 2	PD5-d RA臨床：その他 3	PD5-e 生物学的製剤 7	PD5-f DMARDs 5	PD5-g 全身性エリテマトーデス 6	PD5-h 全身性エリテマトーデス 7	PD5-i 皮膚筋炎と多発性筋炎 1	PD5-j 皮膚筋炎と多発性筋炎 2	PD5-k シェーグレン症候群 2	PD5-l 成人発症スティル病	PD5-m 膠原病の病態 1	PD5-n その他の膠原病関連疾患 1	PD5-o 自己抗体と病態2	PD5-p 自己免疫と疾患：症例報告 2	PD5-q 骨粗鬆症の病態と治療 2	PD5-r SLE	PD5-s リウマチ性疾患と遺伝子転写・シグナル伝達	PD5-t 軟骨 1	PD5-u サイトカイン・抗体	PD5-v 治療 1 関節炎・ループス	PD5-w TEA (人工肘関節) 他	PD5-x THA 2 合併症、症例報告
PD6-a RAのアミロイドーシス	PD6-b RAの免疫	PD6-c RA：症例報告 3	PD6-d RA臨床：その他 4	PD6-e DMARDs 6	PD6-f DMARDs 7	PD6-g 全身性エリテマトーデス 8	PD6-h 全身性エリテマトーデス 9	PD6-i 血管炎症候群 5	PD6-j シェーグレン症候群 3	PD6-k 線維筋痛症	PD6-l 膠原病の病態 2	PD6-m その他の膠原病関連疾患 2	PD6-n T細胞、TLR、EBV、自己抗原	PD6-o 抗リン脂質症候群、血栓症	PD6-p OAの病態	PD6-q 軟骨 2	PD6-r 軟骨の基礎	PD6-s リウマチ性疾患とケモカイン	PD6-t 共刺激分子・シグナル分子	PD6-u 治療 2 関節炎・骨壊死	PD6-v RAの手関節の治療	—	—

第2日目 4月18日(月)

会場名	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
	15					
メインホール 第1会場	開会の辞 PL1 プレナリー セッション1 座長： 吉野 慎一 戸山 芳昭	S01 シンポジウム1 全身性エリテマトーデス：最近の研究の進歩 座長：三森 経世・小池 隆夫				L01 ランチョンセミナー1 関節リウマチに対する 抗TNF療法 -TEMPOスタディレビュー 座長：住田 孝之 演者：Lars G Klareskog
303・304号室 第2会場		IS1 国際シンポジウム1 Chondrocyte biology and arthritis 座長：中村 洋・Francis Berenbaum				L02 ランチョンセミナー2 experiences seen in RA patients using fully human anti-TNF α monoclonal antibody 座長：江口 勝美 演者：Joachim R. Kalden
501号室 第3会場		S03 シンポジウム3 リウマチ手術適応のガイドライン —いつどんな手術が必要 座長：勝呂 徹・井上 和彦				L03 ランチョンセミナー3 関節リウマチ膝関節における ヒアルロン酸の作用 座長：齋藤 知行 演者：齋藤 聖二
502号室 第4会場		S05 シンポジウム5 大学発バイオベンチャーによる 新規リウマチ治療薬の開発 座長：水島 裕・川合 眞一				L04 ランチョンセミナー4 リウマチ関節症の治療 —疼痛対策と外科治療の進歩 座長：井上 和彦 演者：石黒 直樹
301号室 第5会場		W01 ワークショップ1 RAにおける 抗CCP抗体の意義 座長：沢田 哲治 加藤 智啓	W02 ワークショップ2 RAとゲノム情報 座長：永島 正一 三崎 義堅			L05 ランチョンセミナー5 Place of a COX-2preferential drug in the rheumatological armamentarium 座長：中村 孝志 演者：Daniel E. Furst
302号室 第6会場		W05 ワークショップ5 骨粗鬆症の骨脆弱性と 治療効果 —分子病態から 骨折防止まで— 座長：豊島 良太 遠藤 直人	W06 ワークショップ6 変形性関節症 座長：内尾 祐司 木村 友厚			L06 ランチョンセミナー6 線維筋痛症の診断と治療 —このとらえ所の無い前身の 慢性疼痛をどう理解するか 座長：松本 美富士 演者：村上 正人
小ホール 第7会場						
展示ホールB サイエンスランド	展 示					
	ポスター貼付			PD1 ポスターディスカッション1	ポスター 撤去	
ビジネスプロモーションブース・各種イベント・						

※公演内容、時間等が変更されることがあります。会場にてご確認ください。

14:00		15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00			
40				10											
S02 シンポジウム2 関節リウマチと生物学的製剤 座長：竹内 勤・宮坂 信之															
IS2 国際シンポジウム2 Developmental Medicine of the Joints 座長：中島 利博 Matthew L. Warman Ulf Mueller-Ladner								E1 イブニングシンポジウム1 Designing TNF α in RA Frontline Part-1 TNF α targeting therapy: History, present and future strategies z 座長：Joachim R. Kalden・小池 隆夫 越智 隆弘・近藤 啓文・宮坂 信之							
S04 シンポジウム4 リウマチ性疾患の基礎：分子とシグナル 座長：吉川 秀樹・高柳 広															
S06 シンポジウム6 若年性特発性関節炎 ～診断・治療における最新の進歩 座長：横田 俊平・藤川 敏															
W03 ワークショップ3 レフルノミドの肺障害 座長：井上 和彦 猪熊 茂子		W04 ワークショップ4 リウマチ研究のゲノムの展開 座長：広瀬 幸子 小野 栄夫													
W07 ワークショップ7 リウマチ治療薬による有害事象 座長：簗田 清次 針谷 正祥				E2 イブニングシンポジウム リウマチ治療の新たな選択肢 —白血球除去療法— 座長：江口 勝美・龍 順之助											
				10		40		10							
ポスター貼付				PD2 ポスターディスカッション2		撤去 ポスター1									
インターネットカフェ・イベントステージ															

第3日目 4月19日(火)

会場名	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
メインホール 第1会場	PL2 プレナリー セッション2 座長：狩野 庄吾 安倍 達	S07 シンポジウム7 リウマチの外科 —この10年の進歩と今後の発展— 座長：龍 順之助・斎藤 知行				L07 ランチョンセミナー7
303・304号室 第2会場		IS3 国際シンポジウム3 Osteoimmunology 座長：田中 栄・Yongwon Choi				L08 ランチョンセミナー8 関節リウマチに対する レミケード最新情報 —ASPIREを中心に— 座長：越智 隆弘 演者：Josef. S. Smolen
501号室 第3会場		S08 シンポジウム8 変形性関節症に関する研究の最前線 座長：中村 孝志・黒坂 昌弘				L09 ランチョンセミナー9 関節リウマチの 薬物治療と骨破壊 座長：中村 耕三 演者：宗圓 聡
502号室 第4会場		S09 シンポジウム9 膠原病関連疾患の病態解明と新規治療法の開発 座長：尾崎 承一・近藤 啓文				L10 ランチョンセミナー10 リウマチ性疾患と 選択的COX-2阻害薬 Overview 座長：山本 一彦 演者：川合 真一
301号室 第5会場		S10 シンポジウム10 膠原病研究の新たな展開：分子病態と制御モデル 座長：岩倉 洋一郎・能勢 真人				L11 ランチョンセミナー11 リウマチ診療所における リウマチ治療の最前線 座長：安倍 千之 演者：近藤 正一
302号室 第6会場		W12 ワークショップ12 血管炎症候群と 膠原病関連疾患 座長：加藤 智啓 吉田 雅治	W13 ワークショップ13 膠原病患者の マネージメント 座長：渥美 達也 中山田 真吾			L12 ランチョンセミナー12 関節リウマチに伴う 合併症とその対策 座長：鳥巢 岳彦 演者：大島 久二 伊藤 聡
小ホール 第7会場						
展示ホールB サイエンスランド	展 示					
	ポスター貼付			PD1 ポスターディスカッション3	ポスター 撤去	
ビジネスプロモーションブース・各種イベント・						

※公演内容、時間等が変更されることがあります。会場にてご確認ください。

14:00		15:00		16:00		17:00		18:00		19:00		20:00	
30 40		50		15									
総会		学会賞など授賞式 受賞講演		日本医学会からのメッセージ 「日本医学会学術集会と専門医制度の将来展望」									
		W08 ワークショップ8 線維筋痛症 座長：M. B. Yunus 浦野 房三		SS 特別シンポジウム 最近のブレイクスルー 座長：山本 一彦 田中 栄 中島 利博		E3 イブニングシンポジウム3 座長：宮坂 信之・石黒 直樹							
		W09 ワークショップ9 全身性エリテマトーデス 座長：上阪 等 Shun-le Chen											
		W10 ワークショップ10 リウマチ性疾患の 遺伝子解析・シグナル伝達 座長：廣畑 俊成 萩野 浩											
		W11 ワークショップ11 DMARDs 座長：原 まさ子 近藤 正一											
		W014 ワークショップ14 自己抗体と疾患 座長：高崎 芳成 桑名 正隆											
				30									
ポスター貼付				PD4 ポスターディスカッション4		撤 去 ポ ス タ ー							
インターネットカフェ・イベントステージ													

第4日目 4月20日(水)

会場名	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
メインホール 第1会場	PL3 プレナリー セッション3 座長：粕川 禮司 市川 陽一	S11 シンポジウム11 自己免疫疾患発症の分子機構と制御 座長：住田 孝之・佐藤 由紀夫				L13 ランチョンセミナー13 関節リウマチに対する メトトレキサート療法 の有効性と安全性 座長：森本 幾夫 演者：吉田 俊治
303・304号室 第2会場		IS4 国際シンポジウム4 Current topics of Treatment for Rheumatoid Arthritis 座長：西岡久寿樹・Peter E. Lipsky				L14 ランチョンセミナー14 関節リウマチと 治療ガイドライン —最近のTopics— 座長：木村 友厚 演者：三森 経世
501号室 第3会場		S12 シンポジウム12 続発性骨粗鬆症の現状と問題点 座長：遠藤 直人・宗園 聡				L15 ランチョンセミナー15 高齢者の関節リウマチに対する 対応—内科的立場から— 整形外科的立場から— 座長：龍 順之助 演者：石川 肇・高崎 芳成
502号室 第4会場		S14 シンポジウム14 RAの経過と予後 座長：川合 眞一・當間 重人				L16 ランチョンセミナー16 リウマチ性疾患における 免疫制御薬の役割 座長：山本 一彦 演者：宮坂 信之
301号室 第5会場		S16 シンポジウム16 リウマチ治療の新機軸 座長：西本 憲弘・上阪 等				L17 ランチョンセミナー17 関節リウマチの予後予測因子 —血清MMP-3測定の有用性— 座長：松井 宣夫 演者：山中 寿
302号室 第6会場		W17 ワークショップ17 TEA (人工肘関節) —RA肘に対する治療— 座長：羽生 忠正 中村 孝志	W18 ワークショップ18 THAの基礎と臨床 座長：小池 達也 村澤 章			L18 ランチョンセミナー18 ステロイド性骨粗鬆症の 病態とわが国における 治療ガイドライン 座長：腰野 富久 演者：鈴木 康夫
小ホール 第7会場		IS6 EULAR -JCR Session 座長：Ho-Youn Kim・Steffen Gay				
展示ホールB サイエンスランド	展 示					
	ポスター貼付			PD1 ポスターディスカッション5	ポスター 撤去	
ビジネスプロモーションブース・各種イベント・						

※公演内容、時間等が変更されることがあります。会場にてご確認ください。

		14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	
40	CS 市民公開講座 リウマチ治療の進歩 司会：西岡 久寿樹			10		15 閉会の辞			
	IS5 国際シンポジウム5 Crystal induced arthropathy and gout 座長：山内 俊一・黒川 清								
	S13 シンポジウム13 RAの早期診断 座長：山中 寿・鈴木 康夫								
	S15 シンポジウム15 関節リウマチの頸椎病変 —内科医のための診療ガイドライン— 座長：中村 耕三・鏡 邦芳								
	W15 ワークショップ15 滑膜増殖のシグナル 伝達とその制御 座長：佐野 統 松野 博明	W16 ワークショップ16 強皮症と皮膚筋炎・ 多発性筋炎 座長：吉田 俊治 堤 明人							
	W19 ワークショップ19 RAに対するTKA 座長：星野 明穂 秋月 章								
				10	40	10			
	ポスター貼付				PD4 ポスターディスカッション6	撤去 ポスター			
インターネットカフェ・イベントステージ									

会場案内

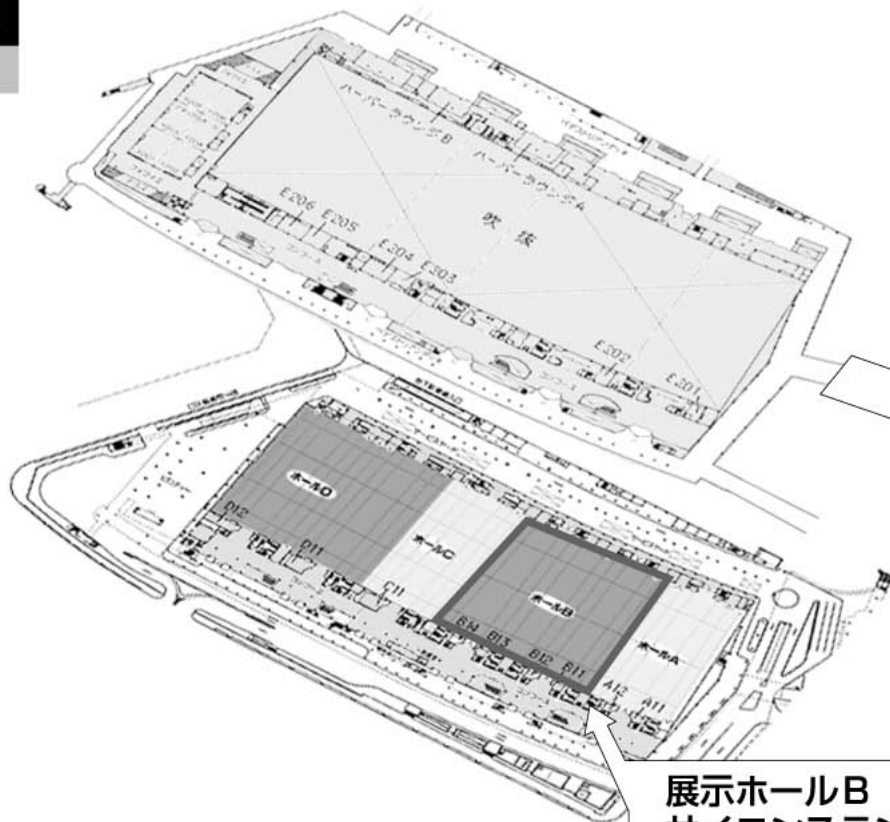


展示ホール

受付 1F

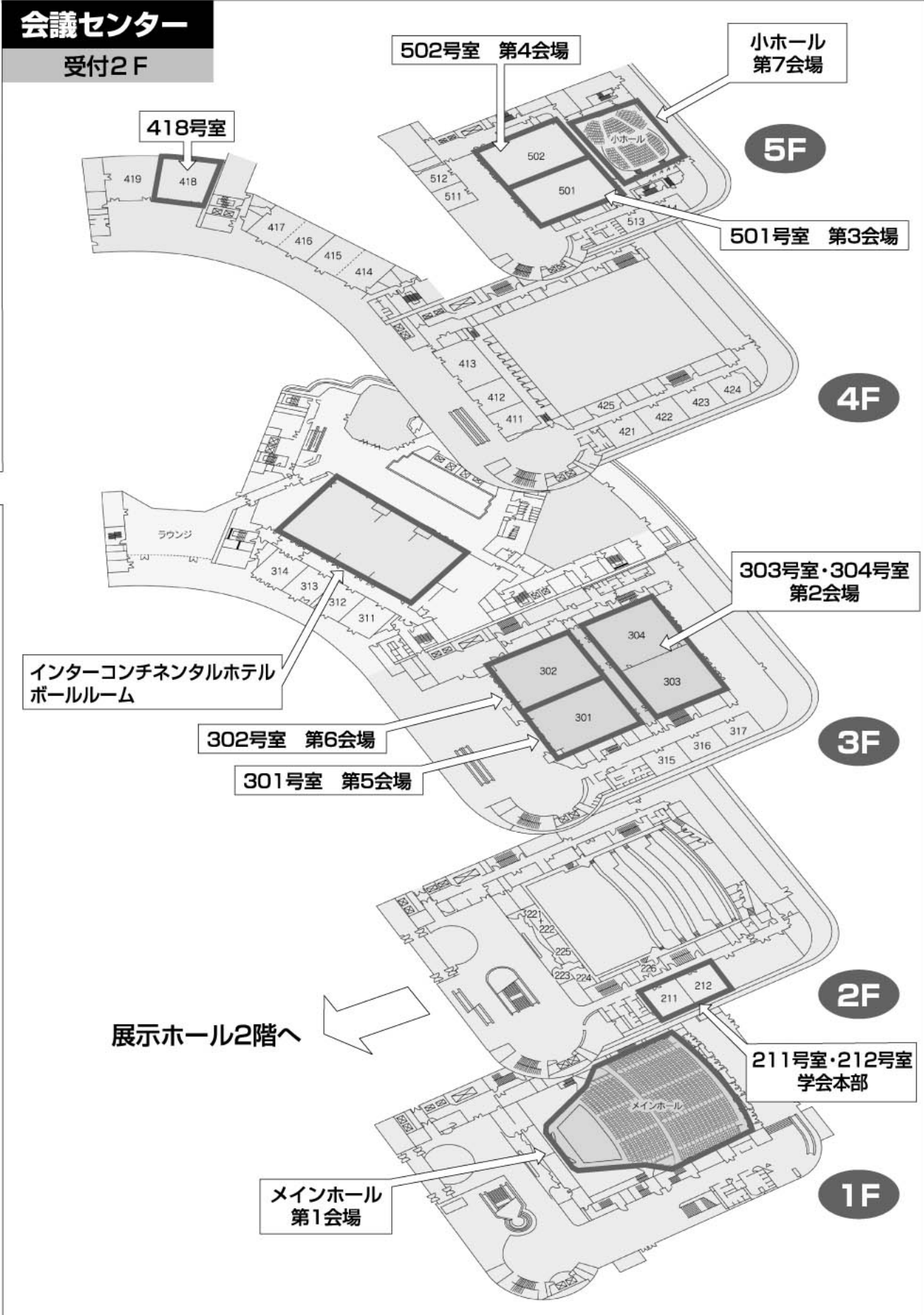
2F

1F



会議センター
2階へ

展示ホールB
サイエンスランド



会場周辺マップ



宿泊案内

◆ホテル一覧表

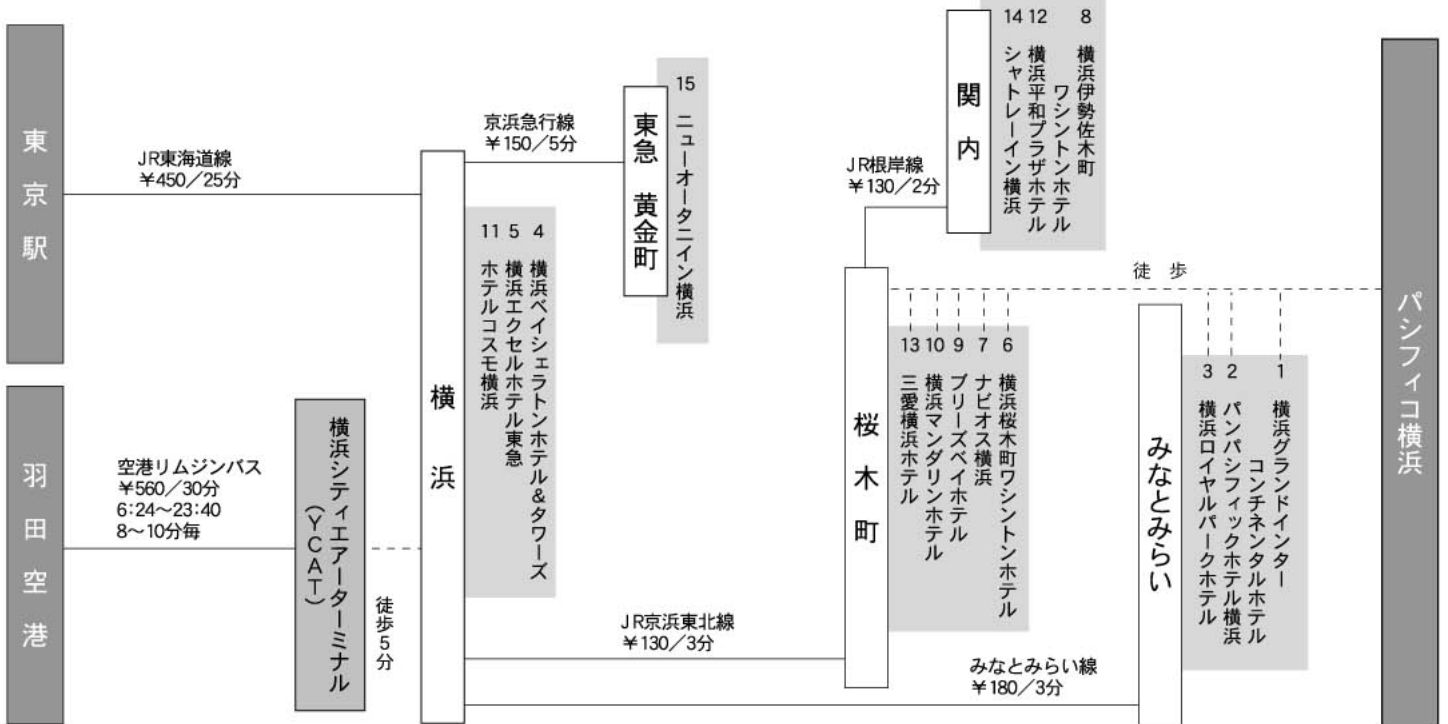
グレード	No.	ホテル名 (チェックイン/アウト)	料金(1室あたり)		住所/電話/最寄駅
			シングル 1名様1室利用	ツイン 2名様1室利用	
A	1	横浜グランドインター コンチネンタルホテル 14:00 / 11:00	*¥18,900	¥23,100	〒220-8522 横浜市西区みなとみらい1-1-1 電話：045-223-2222 会場に隣接
	2	パンパシフィック ホテル横浜 14:00 / 11:00	*¥19,950	¥25,200	〒220-8543 横浜市西区みなとみらい2-3-7 電話：045-682-2222 会場まで徒歩2分
	3	横浜ロイヤルパーク ホテル 14:00 / 12:00	*¥18,900	¥23,100	〒220-8173 横浜市西区みなとみらい2-2-1-3 電話：045-221-1111 会場まで徒歩5分
	4	横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ 14:00 / 12:00	4/16 ¥18,900 4/17-21 ¥14,700	4/16 ¥35,700 4/17-21 ¥25,200	〒220-8501 横浜市西区北幸1-3-23 電話：045-411-1111 JR横浜駅 徒歩2分
B	5	横浜エクセルホテル 東急 14:00 / 11:00	4/16 ¥17,850 4/17-21 ¥14,175	——	〒220-0005 横浜市西区南幸1-1-12 電話：045-311-1682 JR横浜駅 徒歩1分
	6	横浜桜木町ワシントン ホテル 14:00 / 10:00	4/16 ¥13,125 4/17-19 ¥9,975 4/20-21 ¥11,550	——	〒231-0062 横浜市中区桜木町1-1-67 電話：045-683-3111 会場まで徒歩15分
C	7	ナビオス横浜 14:00 / 10:00	4/16 ¥12,495 4/17-21 ¥11,445	4/16 ¥22,890 4/17-21 ¥20,790	〒231-0001 横浜市中区新港2-1-1 電話：045-633-6000 会場まで徒歩10分
	8	横浜伊勢佐木町ワシントン ホテル 14:00 / 10:00	4/16 ¥12,075 4/17-19 ¥8,925 4/20-21 ¥10,500	——	〒231-0033 横浜市中区長者町5-53 電話：045-243-7111 JR関内駅 徒歩7分
	9	ブリーズベイ ホテル 14:00 / 12:00	¥11,550	¥16,800	〒231-0063 横浜市中区花咲町1-22-2 電話：045-253-5555 会場まで徒歩15分
	10	横浜マンダリンホテル 14:00 / 11:00	¥9,450	¥16,800	〒231-0064 横浜市中区野毛4-170 電話：045-243-3131 会場まで徒歩25分
	11	ホテルコスモ横浜 14:00 / 11:00	¥9,450	¥15,750	〒220-0004 横浜市西区北幸2-9-1 電話：045-314-3111 JR横浜駅西口 徒歩7分
D	12	横浜平和プラザホテル 16:00 / 10:00	4/16 ¥10,080 4/17-21 ¥7,560	4/16 ¥18,600 4/17-21 ¥11,760	〒231-0011 横浜市中区太田町5-65 電話：045-212-2333 会場まで徒歩15分
	13	三愛横浜ホテル 14:00 / 10:00	¥8,715	¥15,330	〒231-0063 横浜市中区花咲町3-95 電話：045-242-4411 会場まで徒歩18分
	14	シャトレイン横浜 15:00 / 11:00	¥8,400	¥14,700	〒231-0032 横浜市中区不老町1-2 電話：045-681-4800 JR関内駅 徒歩1分
	15	ニューオータニ イン横浜 15:00 / 10:00	¥7,875	¥13,650	〒231-0055 横浜市中区末吉町4-81 電話：045-252-1311 京浜急行黄金町駅 徒歩1分

上記料金は1室1泊あたりの料金(朝食・サービス料・税金込)です。

*はツインまたはダブルルームのおひとり様利用となります。

料金等変更されることがあります。ご了承下さい。

◆会場へのアクセス



◆ホテルガイドマップ



専門医制度単位の取得について(詳細は会場でご確認下さい)

- 1) 本学術集会において取得できる研修単位は次のとおりです。
 - ① 日本リウマチ学会・専門医＝学術集会出席：7単位、発表（筆頭）：5単位
国際シンポジウム出席：5単位
アニュアルコースレクチャー出席：5単位
下記②の単位も適用されます。
 - ② 日本リウマチ財団・登録医＝下記の講演受講で取得可能な単位数は1日最大
17日・18日 各7単位、19日・20日各5単位 となっております。
 - ・ 国際リウマチシンポジウム1-5：各2単位
 - ・ アニュアルコースレクチャー（17日）1-7：各1単位
 - ・ ランチョンセミナー：各1単位（1日1単位）
 - ・ イブニングセミナー：（18日、19日）：各2単位
 - ③ 日本整形外科学会・整形外科専門医＝下記の講演受講ごとに1単位取得できます。
（但し、1日あたり最大4単位、学会期間中最大6単位までとする）
 - ・ アニュアルコースレクチャー：AL1, AL2, AL5, AL6, AL7
 - ・ ランチョンセミナー：L01、L06, L08、L17
 - ④ 日本内科学会・認定内科専門医＝学術集会出席5単位(要申込み)
 - ⑤ 日本皮膚科学会・認定皮膚科専門医＝学術集会出席6単位
 - ⑥ 日本アレルギー学会・認定医・専門医・指導医＝学術集会出席4単位(*要申込み)
筆頭発表3単位(*要抄録該当箇所)※いずれもコピー可
 - ⑦ 日本小児科学会・認定医＝学術集会出席5単位
 - ⑧ 日本医師会障害教育講座＝学術集会出席3単位(要申込み)
- 2) 日本リウマチ学会専門医の方は、専門医(認定医)手帳をお持ち下さい。総合受付で資格維持単位取得証明の捺印を行います。
- 3) 日本リウマチ財団登録医の研修単位(日本リウマチ学会専門医にも適用されます)は、総合受付で1単位につき、1,000円をお支払いの上、財団の教育研修単位取得証明書をお受け取り下さい。
- 4) 日本整形外科学会認定医単位を取得ご希望の方は、総合受付で1題につき1,000円をお支払いの上、日整会教育研修講演受講証明書をお受け取り下さい。

口演発表について

口演は、パソコンでの発表のみと致します。スライドでの発表はできません。

ご自身のノートパソコンまたは、メディアをご持参下さい。

ご発表前に、PCオペレーター立会いのもと動作確認を行いますので、ご発表の1時間前までにPCセンターまでノートパソコンまたはメディアをご持参下さい。

<PCセンター>

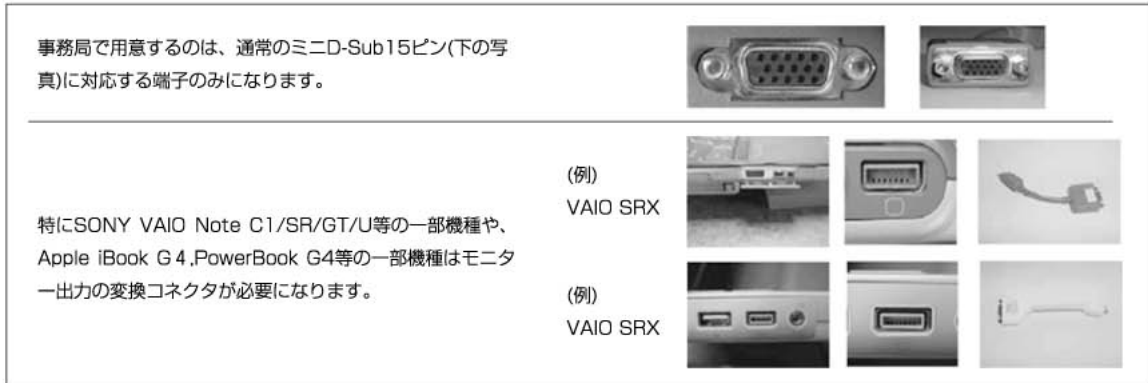
・パシフィコ横浜 会議棟3階

<メディア持込による発表>

- ・メディアは、CD-ROM、USBフラッシュメモリーのみとさせていただきます。MO、その他のメディアは受け付けられませんのでご注意ください。
 - ・メディア持込の場合は事務局でご用意するPCはWindowsXPとなります。Macintoshで作成のデータをメディアをお持ちの場合は、Windowsで対応出来るよう事前もしくは、当日PCセンターにてご調整下さい。
 - ・データ内に動画が含まれる場合は、PCセンターで係員へお申し出下さい。
- ※但しワークショップでご発表する場合は動画のご使用はできません。ご了承ください。

＜ノートパソコン持込による発表＞

- ・ノートパソコン(WindowsまたはMacintosh)と電源アダプタをご持参下さい。
- D-SUB15ピン以外の変換ケーブルが必要な機種をご使用の場合は、変換ケーブルをご持参下さい。
- *特にSONY VAIO Note C1/SR/GT/U等の一部機種や、Apple iBook G4、PowerBook G4等の一部機種はモニター出力の変換コネクタが必要になります。



- ・発表中にスクリーンセーバーや省電力モードにならないよう事前に設定して下さい。
- ・OS・プレゼンテーションソフトともバージョンは問いません。ただし、Windows98以降、Mac OS9以降でのデータ作成をお勧めします。また、Persuasion3.0JやPowerPoint5.0等の古いソフトは使用しないで下さい。
- ・ご自身のパソコンによる発表の方は、PCセンターで試写を済ませた後、発表の20分前までに発表会場内のPCデスクにご自身でパソコンを運搬して下さい。
- ・発表終了後、パソコンは、会場内のPCデスクで返却致します。

ポスター発表について

- 1) ポスターは、貼り付け時間内にご自身で貼り付けてください。画鋲は各ポスターパネルに設置してあります。
- 2) 演題番号は事務局にて準備いたします。
ポスターパネルには下記のように縦160cm、横90cmのポスター貼付けが可能です。
※演題名、所属、演者名はご自身でご準備下さいますようお願い致します。
- 3) 映像(PC等)による発表は不可と致します。
- 4) セッション(討論)は、4セッション/エリア×6エリア=24セッションが同時並行で行われます。
- 5) セッション(討論)時間の開始10分前には各自ポスター前で待機してください。
- 6) 演題番号は1日ごとの通し番号となり、各セッションエリアの上にセッション区分を貼り出します。
- 7) ポスターは、セッション終了後、撤去時間内に必ず各自撤去して下さい。

	18日(月)		19日(火)		20日(水)	
	PD1	PD2	PD3	PD4	PD5	PD6
貼付	8:00~9:00	13:30~14:30	8:00~9:00	13:30~14:30	8:00~9:00	13:30~14:30
閲覧	9:00~11:00	14:30~16:10	9:00~11:00	14:30~16:00	9:00~11:00	14:30~16:10
討論	11:00~12:30	16:10~17:40	11:00~12:30	16:00~17:30	11:00~12:30	16:10~17:40
撤去	12:30~13:00	17:40~18:10	12:30~13:00	17:30~18:00	12:30~13:00	17:40~18:10

演題の特許出願について

尚、発表される演題は、発表から6ヶ月以内に特許を出願すると、出願の優先権が得られます。日本リウマチ学会は特許庁の指定学術団体(3特総第990号)であるため、特許法第30条第1項に基づき、特許庁長官に対して総会・学術集会等で発表された演題の証明書を発行できます。発表演題の特許出願の希望、および証明書発行については下記まで問い合わせください。

(中)日本リウマチ学会事務局 TEL: 03-5251-5353 FAX: 03-5251-5354 E-mail: research@ryumachi-jp.com

関節リウマチ(小関節)の 腫脹・疼痛に

経皮複合消炎剤 **モビラート[®]** 軟膏



〔禁忌(次の患者には使用しないこと)〕

- (1) 出血性血液疾患(血友病、血小板減少症、紫斑病等)のある患者〔本剤に含まれるヘパリン類似物質は血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある〕
- (2) 僅少な出血でも重大な結果を来すことが予想される患者〔本剤に含まれるヘパリン類似物質は血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある〕
- (3) サリチル酸に対し過敏症の既往歴のある患者

〔効能・効果〕

変形性関節症(深部関節を除く)、関節リウマチによる小関節の腫脹・疼痛の緩解、筋・筋膜性腰痛、肩関節周囲炎、腱・腱鞘・腱周囲炎、外傷後の疼痛・腫脹・血腫

〔用法・用量〕

通常、1日1～数回適量を塗擦又はガーゼ等にのぼして貼付する。
症状により密封法を行う。

〔使用上の注意〕

1. 副作用

総投与症例3133例中、24例(0.77%)に副作用が認められ、主なものは発赤7件(0.22%)、痒痒7件(0.22%)、発疹7件(0.22%)、皮膚炎7件(0.22%)、皮膚刺激2件(0.06%)等であった。(再評価結果)

その他の副作用

	0.1～5%未満	0.1%未満
過敏症 ^①	発赤、痒痒、発疹、皮膚炎	皮膚刺激等

注) 症状があらわれた場合には使用を中止すること。

2. 適用上の注意

投与部位：潰瘍、びらん面への直接塗擦を避けること。
眼には使用しないこと。

〔包装〕

チューブ：10g、50g、10g×10、25g×10、25g×40
50g×10、50g×40

●詳細は添付文書をご参照ください。

製造販売

maruho マルホ株式会社

〔資料請求先〕


大阪市北区中津1-5-22 〒531-0071

(2004.6作成)

On the occasion of the JCR2005 Annual General Assembly and Scientific Meeting,
The 14th International Rheumatology Symposium, We congratulate Japan College of Rheumatology (JCR) for its progress.
第49回日本リウマチ学会(JCR)総会・学術集会の開催、第14回国際リウマチシンポジウムの併催に当たり、
JCRの発展に心から祝意を表します。

(五十音順配列)

 アボット ジャパン株式会社
アボット ジャパン株式会社
ABBOTT JAPAN CO., LTD.

 エーザイ株式会社
Elsai エーザイ株式会社
Eisai Co.,Ltd.


 科研製薬株式会社
科研製薬株式会社
KAKEN PHARMACEUTICAL CO.,LTD.


 株式会社デピュー・ジャパン
DePuy
a Johnson & Johnson company
DePuy Japan, Inc.

 GlaxoSmithKline
生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer
グラクソ・スミスクライン株式会社
Glaxo Smith Kline K.K.

 参天製薬株式会社
Santen
Santen Pharmaceutical Co., Ltd.

 塩野義製薬株式会社
SHIONOGI & CO., LTD.

 住友製薬株式会社
住友製薬株式会社
Sumitomo Pharmaceuticals Co., Ltd.

 田辺製薬株式会社
田辺製薬株式会社
Tanabe Seiyaku Co., Ltd.

 中外製薬株式会社
Chugai
ロシュ グループ
中外製薬株式会社
Chugai Pharmaceutical Co., Ltd.

 鳥居薬品株式会社
鳥居薬品株式会社
Torii Pharmaceutical Co.,Ltd.

 Boehringer
Ingelheim
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd.

 日本新薬
日本新薬株式会社
Nippon Shinyaku Co.,Ltd.

 BIOMET®
Most responsive company in Orthopedics
バイオメット・ジャパン株式会社
Biomet Japan, Inc.

 BANYU
A subsidiary of Merck & Co., Inc.,
Whitehouse Station, N.J., U.S.A.
万有製薬株式会社
Banyu Pharmaceutical Co.,Ltd.

 Pfizer
ファイザー株式会社
Pfizer Japan Inc.

 先端医薬で世界をつなぐ
Fujisawa
藤沢薬品工業株式会社
Fujisawa Pharmaceutical Co.,Ltd.

 ブリストル・マイヤーズ株式会社
BRISTOL-MYERS K.K.

三菱ウェルファーマ株式会社
三菱ウェルファーマ株式会社
Mitsubishi Pharma Corporation

 Wyeth®
ワイス株式会社
Wyeth K.K.



中外製薬

Roche ロシュグループ



Suvenyl

関節機能改善剤
指定医薬品

薬価基準収載

スベニール® ディスポバイアル

Suvenyl®

ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌」、「使用上の注意」等については最新の添付文書をご参照ください。

〔資料請求先〕
製造発売元 **中外製薬株式会社**
〒104-8301 東京都中央区京橋2-1-9

各支部だより

第14回北海道・東北支部学術集会

会 期：2004年12月10日(金)・11日(土)
会 場：秋田県総合保健センター

会長：秋田大学医学部整形外科 井樋栄二

第14回日本リウマチ学会北海道・東北支部学術集会は2004年12月10日と11日の2日間にわたり秋田県総合保険センターで行われました。例年になく遅い時期の開催でしたので参加者不足が懸念されましたが、幸い天候にも恵まれ、137名もの方々にご参加いただき、有難く存じます。

学会1日目はクドールエーでおなじみの工藤洋先生（神奈川県綾瀬厚生病院）に、「人工肘関節開発の30年の回顧と今後の展望」と題してご講演をいただきました。Type1からType5までの開発の経緯を、苦労された症例などを交えながら話していただき、まさにリウマチ患者さんの肘関節治療の歴史の一部および未来を垣間見る思いで拝聴させていただきました。2日目には高倉義典教授（奈良県立医科大学）に「RAの足部変形に対する治療」と題してご講演をいただきました。前足部変形に対する治療から始まり中後側部の保存的治療、そしてほぼ30年に亘る人工足関節開発の歴史にいたるまで、先生の豊富な知識とご経験をもらさず伝授していただきました。シンポジウムは「関節リウマチにおける頸椎病変の手術タイミング」というテーマで、

北海道、東北各県より高名な脊椎外科の先生方にお集まりいただき討議していただきました。レントゲン計測値、症状、所見などから頸椎病変を有するリウマチ患者さんへ手術を勧めるべき指標がある程度具体的に示されたと思います。

主題は最近の薬物治療のトピックスである生物学的製剤の中で、市場に出回っているインフリキシマブについて、実際の臨床効果、副作用などを中心にご発表いただきました。

インフリキシマブの高い有用性が再確認された一方、危惧されていた結核の発生は少なく、むしろinfusionreactionや一般感染その他の副作用が問題となっておりました。一般演題は38演題の応募があり、これらを膠原病、基礎、レフルノミド、頸椎、関節手術のセッションに分けて発表していただきました。全体として、新しい治療も含めてリウマチの病態から治療を広くカバーすることができたかと思えます。

年末のお忙しい時期に学会に参加して下さったすべての先生方に御礼申し上げますとともに、本会の今後ますますの発展をお祈り申し上げて、学会報告にさせていただきます。



▲井樋会長



骨粗鬆症治療剤

薬価基準収載

ボナロン[®]錠 5mg

<アレンドロン酸ナトリウム 水和物 錠>

劇薬・指定医薬品・要指示医薬品 (注意：医師等の処方せん・指示により使用すること)

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、
添付文書をご参照ください。

商標 #ボナロン/Bonalon[®] is the registered trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, NJ, USA.

製造・販売元

TEIJIN 帝人ファーマ株式会社

資料請求先：学術情報部

〒100-8585 東京都千代田区内幸町2-1-1

BNT027 (KK) 0308改3 2003年8月作成

2004年度日本リウマチ学会第17次「リウマチ指導医」認定者

2004年度のリウマチ指導医には次の45名の方が認定されました。なお、認定証の有効期間は2005年3月1日から2010年2月28日までです。

浅沼 ゆう	荒井 勝光	伊藤 勝己	伊藤 淳	牛山 敏夫	大田 明英	岡井 隆広	岡本 完
影山 康徳	金粕 浩一	鬼無 信	木下 浩二	黒田 広生	桑名 正隆	小竹 茂	紺井 一郎
近藤 健治	佐藤 正夫	生野 英祐	武田 誠司	田中 浩	坪井 声示	坪井 紀興	富田 哲也
中島 利博	南家 由紀	西山 進	野島 美久	長谷川 均	檜垣 恵	福居 顕宏	富田 悦子
松末 吉隆	松永 俊二	三束 武司	森 雅亮	森尾 泰夫	森口 正人	山田 邦雄	前島 裕司
横田 俊平	吉崎 和幸	吉田 行雄	吉永 泰彦	渡部 昌平			山西 裕司

2004年度日本リウマチ学会第18次「リウマチ専門医」認定者

2004年度のリウマチ専門医には次の177名の方が認定されました。なお、認定証の有効期間は2005年3月1日から2010年2月28日までです。

相木 一秀	赤荻 淳	秋山 武徳	東 直人	安藤 仁志	生山祥一郎	池口 宏	池野 義彦
出浦 洋	伊藤 順一	井上 久子	井上 靖浩	岩館 治代	内田 健介	梅下 光子	大岩 寛
大川 匡	大田 博之	太田 光彦	大塚 隆信	大沼 圭	大村浩一郎	大山 重隆	岡崎 賢
岡崎 優子	岡部 聡	小川 純	小川 祥江	小倉 健	甲斐 泰文	賀川 武	香川 英俊
加来 信広	葛西 正明	柏木陽一郎	勝又 康弘	加藤 一郎	加藤 清信	加藤 美穂	金山 康秀
上條 祐司	川端 大介	神田 浩子	菊池 修	菊地 泰彦	菊山愛一郎	木村 健一	楠 芳恵
工藤 智志	工藤 太郎	窪田 綾子	黒岩 卓	黒木 昌幸	郷田三賀子	児玉 国洋	児玉 直樹
小島 康宣	小林 厚志	小林 弘	小林 正明	駒野有希子	近藤真偉智	斉藤 公久	佐久間陸友
佐々木明子	佐々木 隆	佐藤智太郎	里村 厚司	佐野 徳久	椎木 栄一	穴戸 友明	清水 弘毅
清水 幸人	志村 右子	ジャノハ加奈子	周 豪奎	菅田 文彦	杉井 章二	杉崎 康太	鈴木 祐弥
駿河 昌男	清家 一郎	関 真奈美	瀬戸 洋平	佐久間深雪	傍島 淳子	峠岡 康幸	高窪 祐弥
高澤 徳彦	高城 一郎	高野 恵雄	高橋 敦史	田口 博章	田中 敬雄	近澤 宏明	千葉 剛裕
塚田 義人	付岡 正	土屋 登嗣	東藤 智	栃本 明子	富田 英明	鳥越 義博	長坂 憲治
中谷 晃之	中野 和久	中野 弘雅	中村 武	中村 英樹	中山田真吾	滑川 尚史	西岡真樹子
西川 昌孝	西田 晴彦	西村 俊司	西本 憲弘	萩原 清文	濱崎 健	濱田健一郎	濱田 浩朗
林 大	原 俊彦	原口 和貴	原嶋真主美	原田 修次	原中 美環	引網 宏彰	平田信太郎
平野 資晴	深谷 悦子	藤井 隆之	藤林 孝義	藤見 忠生	古川 真	遠見 俊一	細川 雅永
細川 緑	前澤 玲華	松岡 利明	松下 格司	松下 哲尚	松橋めぐみ	松本 桂子	松本 智成
松本 秀明	水谷 潤	水村 珠青	宮島 良博	三好 麻里	村井 文寛	村田 美紀	村田三奈子
森下 実	森本 真司	矢嶋 宣幸	安岡 秀剛	安田 國士	安田 千穂	柳田 英寿	矢野 隆介
山口 統彦	山田 千穂	山名 二郎	山中三知夫	山根 隆志	山初 晋也	山本 要	山本 鉄也
山本 憲廣	吉川 賢忠	依田 欣之	米井 徹	若林 孝幸	和田 隆志	和田 庸子	渡邊 大

2005年度日本リウマチ学会教育施設募集および継続申請のお知らせ**【教育施設の募集について】**

日本リウマチ学会では前年度に引き続き2005年度の教育施設の募集を行います。認定を希望する診療施設は、次の各号の条件をすべて満たしていることが必要です。

1. 総合病院、またはこれに準ずる病院、およびリウマチ専門病院
2. リウマチ性疾患が年間100症例（関節リウマチを30症例以上含む。）以上あること。
3. 研修環境が総合的に整備されていること。
4. 指導医1名以上、または専門医2名以上が勤務していること。なお、専門医1名は定期的に勤務する非常勤（2回/月程度以上）を含めることができる。
5. リウマチ学に関連する教育が定期的に行われていること。

教育施設の認定を申請される診療施設の長は、教育施設申請用紙をE-mail又はハガキで事務局までご請求下さい。

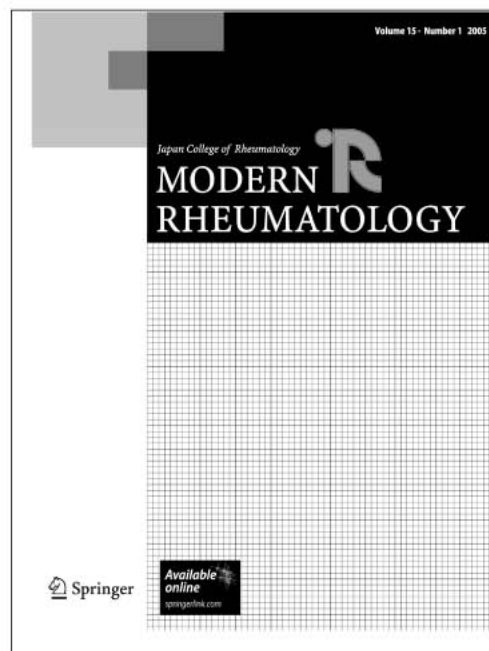
教育施設の認定のための日程は、申請受付を2005年6月末日で締切り、認定審査を行い9月に認定の通知を発送する予定です。

【教育施設の継続申請について】

2002年9月1日新規または継続認定の教育施設につきましては、認定証の有効期限が2005年8月31日となっておりますので資格維持の手続きが必要となります。5月中に本委員会から該当する教育施設に「継続申請書」用紙を送付いたしますので、継続を希望される教育施設は2005年6月末日までに同申請書を提出下さい。

なお、日本リウマチ学会「教育施設」一覧表をニュースレター2004 No.4 23～28頁に掲載していますのでご参照下さい。

(中)日本リウマチ学会の英文誌 (Modern Rheumatology) 投稿・発行規定 (2005年1月5日改訂)



(2005年15-1号からのMR新表紙)

目的と内容

Modern Rheumatologyはリウマチ学および病理学、生理学、臨床免疫学、微生物学、生化学、実験動物学、薬理学等の関連分野におけるオリジナル論文を英文で掲載する。

症例報告および広く読者に関心を持たれるテーマに関する綜説も受け付ける。また、内容が独創的かつ明快で、科学的価値の高い小論文も掲載を考慮する。

LetterはModern Rheumatologyの既掲載論文およびリウマチ学、有限責任中間法人日本リウマチ学会に関する事項に対するコメントに限る。速報は症例または研究上の知見に関するごく短い報告とし、抄録は付けない。

その他の記事も編集委員会の判断により掲載する。

論文は本学会の会員を問わず受け付ける。

年6号発行する。原稿は電子メールで、常時受け付ける。

投稿条件

著者は、提出論文の内容のいかなる部分も未出版であること(ただし、抄録の形式で、または出版物になった講義、解説記事、学位論文の一部は可とする)、また、他の出版物への掲載予定のないことを誓約しなければならない。他の著作物からの直接引用や図表を含めざるをえない場合には、それらの著者と著作権保持者からの英文での使用許可を提出論文に添付する。

提出論文が査読後受理された場合、その著作権を有限責任中間法人日本リウマチ学会とシュプリンガー・フェアラーク東京に自動的に譲渡すること、また論文あるいはその一部が言語の如何を問わず、著作権保持者の許可なく他の出版物に掲載されないことを誓約する。

ヒトを対象とした人体調査は、投稿者の所属機関または地域の倫理審査委員会が人体実験について定める倫理規範、もしくはヘルシンキ宣言(1964年採択)とその改訂条項(1975年改正、2000年修正)の精神を遵守する。また全ての患者対し、インフォームド・コンセントを得ること、プライバシーの保護などに関する倫理的問題に十分配慮する。

動物実験における動物の取り扱いにおいても、投稿者の所属機関の倫理審査委員会が定める倫理規範、もしくは米国学術研究会議National Research Council(NRC)の規範「No. 86-23」(National Institute of Health 出版物)に従う。

利益相反 (Conflict of Interests) の恐れがある、いかなる金銭的・或いは個人的関係について情報公開する必要があり、論文投稿における謝辞の項目には、そのような関係をすべて宣誓する。

論文の著者及び共著者は、投稿原稿が他で一切発表されていないことを誓約する文書を、全員署名の上、提出する。

原稿形式

原稿は英文で記述し、抄録、本文、謝辞、文献、図説、表を含めA4サイズにダブルスペースで作成する。各パートは改頁し、前記の順に原稿ナンバーをつける。

英文は英語を母国語とする研究者が読んで正確に理解できるものであること。校閲者から英文の改善を求められた場合は、英語を母国語とし関連分野に詳しい者の校閲を受けること。この場合、編集委員会が斡旋する人の校閲を受けることが出来る。ただし、その費用は著者負担とする。

標準的な略語や単位を使用する。略語は初出の際にスペルアウトする。略語は標題では使用しない。薬品や化学物質は一般名を使用する。

掲載論文の原稿は返却しない。

原稿枚数

原著および綜説は、30枚以内とする。(抄録、文献、図表を含む)。症例は、文献を含め20枚以内とする。(抄録、文献、図表を含む)。図表は1点につき原稿1枚と換算する。

刷り上りが16ページを越えた場合には、その費用を請求される。Letterおよび速報は文献を含め4枚以内とし、抄録は付さない。

表紙

表紙には、論文の種類(原著、症例等)、標題、全著者名、著者の所属とその住所、本文枚数、図説、図表の点数を記載する。さらに、5語までのキーワード(アルファベット順に)、連絡先となる著者名や住所・電話番号・ファックス番号・e-mailアドレス、必要があれば編集委員会へのコメントを記載する。

抄録

原著は、目的、方法、結果、結論を200語以内で簡潔に記述する。

症例、綜説は各々75語、200語以内とする。

抄録中に小見出しは付けない。

本文

実験的な内容の論文については、Introduction, Materials

and Methods, Results, Discussionの構成で記述する。

表

表は本文中で引用され、アラビア数字で出現順に番号を付ける。各表は個々に改頁し、簡潔な題をつける。表中で使われている主要な略語を表の脚注で説明する。

図

図は本文中で引用され、アラビア数字で出現順に番号を付ける。各図には簡潔な図説を付ける。図説は本文の後に、図とは別に一括して記載する。

図はコラムの幅(8.6cm)または印刷領域(17.6×23.6cm)に合わせた大きさにする。組み合わせの図は、印刷領域を越えない範囲(図説も考慮する)でまとめる。その際図番号を明記する。

カラー図は受け付けるが、著者はその費用を請求される(カラーページ1ページ目¥110,000, 2ページ目以降は1ページ当たり¥60,000)。カラー図はカラー、白黒いずれでの印刷を希望するか表紙に記載する。

図や写真の電子画像送信も論文のオンライン審査用に受け付けるが、著者は掲載通知を受理後、各号に掲載されている出版社の電子投稿のスペックに従い、出版用の電子画像を提出する。

(線画)

最終的に印刷を希望する大きさで鮮明であること。文字は明瞭で読みやすくする。

(ハーフトーン図(写真を含む))

適切なコントラストで、的確な角度と最終的な印刷サイズで提出する。

光学顕微鏡写真の場合、図説中に染色法を示す。電子顕微鏡写真は寸法を示すために写真中にバーを入れ、図説中でそのバーの数値と単位を示す。

文献

文献はアルファベット順ではなく、本文中での出現順に番号付ける。文献データは、著者の責任をもって、正確に記載する。

私信や未出版データは文献リストに含めるべきではないが、本文中に括弧付きで引用することができる。(例:A, Aoki 1999 personal communication)それが他者のものである場合は、直接の引用を認める著者の署名入り手紙を提出する。

他誌で掲載受理されていて未出版の論文は文献リストに含めることはできるが、括弧付きで“In press”と記載する。

文献リストには、引用該当ページおよび最初の6人までの著者名を、それを超える場合は“et al”を付す。雑誌名はIndex Medicusに準じる。日本語で書かれた論文は、例2の

形式による。文献は本文中では上付き文字で引用する；

〔例〕Ames et al. 1 reported...

〈雑誌〉

1. Ames PRJ, Lupoli S, Alves J, Atsumi T, Edwards C, Iannaccone L, et al. The coagulation/fibrinolysis balance in systemic sclerosis: evidence for hematological stress syndrome. *Br J Rheumatol* 1997; 36: 1045-50.

2. Kamihara S. Case of Sjogren syndrome associated with idiopathic monoclonal IgA rheumatoid factor and pyroglobulinemia (in Japanese). *Rinsho Ketsueki*. In press.

〈単行本〉

3. Cassidy JT. Systemic lupus erythematosus, juvenile dermatomyositis, scleroderma, and vasculitis. In: Kelly WN, Harris ED Jr, Ruddy S, Sledge CB, editors. *Textbook of rheumatology*. 5th ed. Philadelphia: WB Saunders; 1997. p. 1241-64.

〈Proceeding〉

4. Bengtsson S, Solheim BG. Enforcement of data protection, privacy and security in medical informatics. In: Lun KC, Degoulet P, Piemme TE, Rienhoff O, editors. *MEDINFO 92. Proceedings of the 7th World Congress on Medical Informatics*; 1992 Sep 6-10; Geneva, Switzerland. Amsterdam: North-Holland; 1992. p. 1561-5.

別刷

著者には別刷30部を無料で提供する。それ以上の部数が必要な場合には、100部までは50部単位で、100部以上は100部単位で注文を受け付ける。

論文審査

提出された論文は、少なくとも2人のレフリーと編集委員により審査され、必要な場合には言語および内容について訂正を求める。編集委員は論文の採否および掲載順序を決定する。

著者は、論文の訂正と再提出を求められた場合、2ヵ月以内に応じられない場合は、掲載を辞退したものと見なされる。

原稿送付先および問い合わせ先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目1番24
第1オカモトヤビル9階

有限責任中間法人 日本リウマチ学会

Modern Rheumatology編集委員会

Tel 03-5251-5353 Fax 03-5251-5354

Email: MR@ryumachi-jp.com

<http://www.ryumachi-jp.com/book/index.html>

MR編集委員長からのお話し

有限責任中間法人日本リウマチ学会の英文誌Modern Rheumatology (MR)は、インパクトファクターをつけることを目指しています。紙媒体ではなかなか引用されにくい状況を考慮いたしまして、過去5年間に掲載されたMRへの論文abstractsを全て学会ホームページに掲載いたしました。

学会ホームページのトップ頁にある「会員の頁」をクリックして、「会員の頁」に入ります。「学会誌・刊行物」をクリックしますと、「Modern Rheumatology」のバックナンバーの一覧と各年のkey-words indexとauthors index一覧がご覧いただけますので、論文を書く際は出来る限り、Modern Rheumatologyから引用していただくよう会員の皆様をお願い申し上げます。

Modern Rheumatology 編集委員長 宮坂信之

Santen



Together

抗リウマチ剤

薬価基準収載

創薬、指定医薬品、要指示医薬品
(注意—医師等の処方せん・指示により使用すること)

新発売

メトレート[®]錠2mg

Metolate[®] tablets 2mg

メトトレキサート錠

■【効能・効果】、【用法・用量】、【警告、禁忌を含む使用上の注意】等については、添付文書をご参照下さい。

抗リウマチ剤

薬価基準収載

創薬、指定医薬品

リマチル[®]錠100mg

Rimatil[®] tablets 100mg

ピシラミン100mg錠

創薬、指定医薬品

リマチル[®]錠50mg

Rimatil[®] tablets 50mg

ピシラミン50mg錠

■【効能・効果】、【用法・用量】、【禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意】等については、添付文書をご参照下さい。

抗リウマチ剤

薬価基準収載

指定医薬品、要指示医薬品 (注意—医師等の処方せん・指示により使用すること)

アザルフィジン[®]EN錠

Azulfidine[®]EN tablets

サラソスルファピリジン500mg腸溶錠

指定医薬品、要指示医薬品 (注意—医師等の処方せん・指示により使用すること)

アザルフィジン[®]EN錠250mg

Azulfidine[®]EN tablets 250mg

サラソスルファピリジン250mg腸溶錠

■【効能・効果】、【用法・用量】、【禁忌を含む使用上の注意】等については、添付文書をご参照下さい。

製造発売元
S 参天製薬株式会社
大阪市東淀川区下新庄3-9-19
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

発売元
S 参天製薬株式会社
大阪市東淀川区下新庄3-9-19
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

製造元
p ファイザー株式会社
東京都渋谷区代々木3-22-7



持続性抗炎症・鎮痛剤 《ナブメトン錠》

指定医薬品
レリフェン[®]錠
RELIFEN RELIFEN[®]400 [薬価基準収載]

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意につきましては添付文書をご参照ください。

製造販売元
株式会社 三和化学研究所
SKK 本社/名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631
●ホームページ <http://www.skk-net.com/>
提携 **グラクソ・スミスクライン株式会社**

資料請求先・問い合わせ先
コンタクトセンター
☎0120-19-8130
受付時間: 月-金 9:00-17:00(祝日は除く)

2003年7月作成

フルマリン[®] キット静注用1g

オキサセフェム系抗生物質製剤
指定医薬品、要指示医薬品^{注1)}

フルマリン[®]キット静注用1g

注射用フロモキシセフナトリウム 略号 FMOX Flumarin[®]

注1) 注意-医師等の処方せん・指示により使用すること

■薬価基準収載 ■「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌」、「原則禁忌」、「使用上の注意」等については添付文書をご参照下さい。 (R):登録商標

(資料請求先) 塩野義製薬株式会社 〒541-0045 大阪市中央区道修町3-1-8

シオノギ製薬

NEWS LETTER **CONTENTS** 2005. No.5

●巻頭言

第49回リウマチ学会総会・学術集会（JCR2005）開催にあたって

西岡 久寿樹…1

●第49回日本リウマチ学会総会・学術集会

第14回国際リウマチシンポジウム……………2～25

開催概要／参加者へのお知らせ／プログラム委員会／教育研修プログラム委員会／JCR2005事務局／アニュアルコースレクチャー／主会場「サイエンスランド」／JCR大会日程表／会場案内／会場周辺マップ／交通のご案内／宿泊案内／専門医制度単位の取得について／口演発表について／ポスター発表について／演題の特許出願について

●各支部だより 第14回北海道・東北支部学術集会……………28

●お知らせ……………29

2004年度日本リウマチ学会第17次「リウマチ指導医」認定者

2004年度日本リウマチ学会第18次「リウマチ専門医」認定者

2005年度日本リウマチ学会教育施設募集および継続申請のお知らせ

●英文学会誌 *Modern Rheumatology (MR)* 投稿・発行規定……………32・33

MR編集委員長からのお願い 宮坂 信之

●目次・奥付……………36



●情報化委員会 担当理事：澤井高志
ニュースレター小委員長：天野宏一／委員：諏訪 昭・中島亜矢子・田中真希

ニュースレター 2005年・第5号 発行日2005年3月15日
発行者 有限責任中間法人 日本リウマチ学会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-24 オカモトヤビル9F
TEL.03-5251-5353 FAX.03-5251-5354
E-mail gakkaim@ryumachi-jp.com URL <http://www.ryumachi-jp.com>
デザイン・制作 クリエイトM2 〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-5
TEL.03-5215-6560 FAX.03-5215-6560 E-mail creat-m2@sea.plala.or.jp
印刷社 山下印刷(有) 〒105-0003 東京都港区西新橋1-21-4
TEL.03-3591-1025 FAX.03-3591-0846

Wyeth®



道がなければ、つくるしかない。

Find a way, or make one — RA* (関節リウマチ) 治療の明日へ

RA (関節リウマチ) は、いまのところ
有効な治療法のかぎられた病気です。

痛み、腫れて変形した関節は

歩く、つかむ、起き上がる、といった

「あたりまえ」のことにする自由を奪います。

* RA = Rheumatoid Arthritis

ワイスは、これまででも、これからも、

RA 治療薬のリーディングカンパニーとして

完治をめざす歩みを止めることはありません。

最新のテクノロジーによる、革新的な薬剤を提供すること。

そして、患者であるあなたの生きる喜びのために、

医療にたずさわるあなたの充実した活動をサポートするために、

より心豊かに分かり合える社会づくりのために、捧げてゆきます。

RA (関節リウマチ) とまっすぐ向き合う、医療関係者、患者さんとその家族、すべての方々のための幅広い情報がぎっしり詰まった専門サイトです。



リウマチe-ネット <http://www.riumachi.jp>

ワイス株式会社 〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目10番3号

REMICADE



抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤

薬価基準収載

レミケード[®]点滴静注用100

REMICADE[®] for I.V. Infusion100

インフリキシマブ(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 劇薬 指定医薬品 要指示医薬品[®] 注) 注意-医師等の処方せん・指示により使用すること

※ 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



輸入販売元(資料請求先)
田辺製薬株式会社
大阪市中央区道修町3丁目2番10号
<http://www.tanabe.co.jp/>



製造元
Centocor

マルバーン/ペンシルバニア州(アメリカ)

2004年2月作成